

3rd Circular

2021年11月10日

\*\*\*\*\*

## 第21回東京科学シンポジウム

# テーマ： コロナ危機の時代を生きる

### — 科学・人権・市民的連帯 —

開催日時：2021年11月27日（土）～11月28日（日）

開催方式：オンラインミーティング ※ソフトはZoomミーティングを使用

主催：日本科学者会議東京支部

\*\*\*\*\*

第21回東京科学シンポジウム 3rd Circular 発行にあたって

実行委員長 米田貢

コロナ禍のなか、開催が実現できるかどうか、当初大きな不安を抱きながら準備してきた第21回東京科学シンポジウムが近づいて参りました。会員だけでなく、日頃より様々な分野で活動されている皆様のご協力を得て、オンライン形式という制限された形式ですが、最終的に実現に漕ぎつきました。従来通り、2日間で2本の特別報告と16（当初計画よりは1つ減っています）の分科会からなる盛りだくさんの催しになっています。報告者として、会内外の研究者・技術者だけではなく、さまざまな高度専門職業人や、各分野の市民運動や労働組合運動でご活躍の方々が登場されます。

1st Circular で記したように、今回は2009年の第15回以来6回継続してきた「理性と希望の平和な時代を拓く」というメインテーマを「コロナ危機の時代を生きる」に替え、サブテーマとして「科学・人権・市民的連帯」を掲げました。それだけコロナ禍の影響が社会のあらゆる領域に深刻かつ多大な影響を及ぼしているということです。人々は、第5波が急激に収束している現状でも、冬場にかけてインフルエンザと合わせて第6波が来るのではないか、「巣ごもり生活」を止め、趣味のスポーツ観戦やライブへの参加、呑み会に行きだして本当に大丈夫なのだろうか、オンラインの普及によって学校生活や職場での働き方はどの程度変わるのだろうか、大きな不安を抱えています。

今回のシンポジウムでは、コロナ禍の影響の現状を、それぞれの現場で活動されている多くの方々にリアルにご報告いただき、参加者全体で、ポストコロナをどう生きるべきかを考えてみたいと思います。日本政府の科学的根拠に基づかないコロナ禍対策は、感染症対策の点で大きな誤りを犯しただけでなく、市民の理解と同意に基づいて社会危機を管理し、社会全体としてそれを乗り越えていくという政治手法の点でも大きな問題点を残してきました。地球環境破壊の現状からして、新たな感染症の発生は不可避とする見通しが出されている

点からも、今回のコロナ禍の発生から終息に至る全過程の科学的な分析が求められています。

第21回東京科学シンポジウムに研究者だけでなく多くの市民が参加されることをよびかけると同時に、皆さんとの議論を通じて、生活と労働、個人生活と社会交流のあり方についてお互いの認識が深まることを期待しています。

## 1. 開会式 11月27日(土) 13:15-13:20

米田貢実行委員長よりご挨拶

## 2. 特別報告 11月27日(土) 13:20-17:15

1. 稲葉剛 (一般社団法人つくろい東京ファンド代表理事・認定NPO法人ビッグイシュー基金共同代表・立教大学大学院21世紀社会デザイン研究科客員教授その他)

「コロナ禍における生活困窮者支援の現場から」

2. 志田陽子 (武蔵野美術大学)

「コロナと憲法53条臨時国会問題」

## 3. 分科会 11月27日(土) 午前、11月28日(日) 午前、同午後

### 【1】分科会名：日本におけるコロナ禍の現状と課題

・設置責任者：米田貢 (中央大学分会)

・連絡先：myoneda(at)tamacc.chuo-u.ac.jp ※メールを送る際は(at)を@に代えてください

・設置趣旨：日本では、COVID19の感染拡大の第5波の到来によって、連日1万人を超える感染者が確認される事態に陥り、東京都では多くの感染者が入院できないまま命の危険に晒される「自宅療養」を強制されている。この医療崩壊は、日本政府の感染症対策の失敗がもたらした人災である。本分科会では、日本における人災としてのコロナ禍のもとで、医療現場だけでなく家庭、学校、職場、地域でどのような問題が発生しているのかを多面的に解明する。

**11月28日(日) 10:00~15:30**

### 第1部 医療分野(公衆衛生を含む)の現状と課題

座長：米田貢(中央大学分会)、山田秀樹(医師・立川相互病院副院長)

10:00~10:35 (1) 植山直人(医師・全国医師ユニオン代表)：日本の医療体制の構造と政策の問題——感染拡大で医療崩壊を起こした脆弱な医療体制の背景と不適切な政策——

10:35～11:10 (2) 山本民子 (保健師・江東区職労委員長):

「コロナ第4・5波の保健所の現状と今後の課題」

11:10～11:15 <休憩>

11:15～11:50 (3) 山田秀樹 (医師・立川相互病院副院長):

「コロナ診療の現場から第5波を振り返る」

11:50～12:15 全体討論

<昼食休憩>

## 第2部 教育分野 (小中学校を中心に) の現状と課題

座長: 米田貢 (中央大学分会)、大友育子 (都内公立小学校教員・都教組教文部長)

13:15～13:50 (1) 大友育子:

東京の公教育と教職員組合運動-人材作りの教育から豊かな子ども時代を保障する教育への転換を一

13:50～14:25 (2) 丸地一矢 (都内公立小学校教員・都教組墨田支部):

「コロナ禍の学校と教育-本当に子どもの教育に必要なものは何か-」

14:25～14:30 <休憩>

14:30～15:05 (3) 高草木直子 (都内公立中学校教員・都教組文京支部):

都立高校入試英語スピーキングテスト導入と教育の市場化について

15:05～15:30 全体討論

## 【2】改憲発議阻止の課題を考えよう-新型コロナウイルス・日本パンデミックと改憲発議策略-

・設置責任者: 金子勝 (立正大学分会)、中野貞彦 (武蔵野通研分会)

・連絡先: s.nakano(at)d012.dant2.jp (中野) ※メールを送る際は(at)を@に代えてください

・設置趣旨: 2021年6月11日の参議院本会議で、「日本国憲法の改正手続に関する法律の一部を改正する法律案」が成立し、改憲問題は、新たな段階を迎えた。今後の改憲問題の焦点は、憲法審査会での改憲案の審議及び採決、そして、国会での改憲発議をめぐる攻防に移ることになる。自由民主党政権は、新型コロナウイルス・日本パンデミックを利用して、日本国憲法の中に「緊急事態条項」や「自衛隊条項」を取り入れることを柱とする改憲案を掲げて、改憲発議を図ってくると思われる。改憲反対運動も、新たな展開の課題を抱えることになったので、どのような改憲発議阻止の運動に取り組んだらよいかを、みなさんと検討したいと考えている。

### 11月28日(日)15:50～18:05

座長: 金子勝 (立正大学分会)、中野貞彦 (武蔵野通研分会)

15:50～15:55 座長あいさつ

15:55～16:15 (1) 中野貞彦 (武蔵野通研分会): 幣原喜重郎に関する近著をめぐって九条の原点を考える

- 16:15～16:35 (2) 二橋元長 (埼玉県平和委員会代表理事): コロナ禍での学習・対話の工夫—オンライン「ピースカフェ」と「コラボ・チャンネル」について
- 16:35～16:55 (3) 金竜介 (弁護士 自由法曹団東京支部幹事長): 差別の扇動を許さない社会を創る—改憲策動とレイシズム—
- 16:55～17:00 <休憩>
- 17:00～17:20 (4) 田島治 (武蔵野憲法ゼミナール): 市民による憲法学習の意義と可能性—市民学習サークル「武蔵野憲法ゼミナール」の実践を通して—
- 17:20～17:40 (5) 金子勝 (立正大学分会): 改憲発議阻止の課題と方法
- 17:40～18:00 <討論>
- 18:00～18:05 閉会あいさつ

### 【3】平和研究の現在

- ・設置責任者: 真嶋麻子 (個人会員)
- ・連絡先: asacom0413(at)gmail.com ※メールを送る際は(at)を@に代えてください
- ・設置趣旨: 現在の世界には、軍事的威嚇、基地問題、核開発、テロリズム、貧困、差別、経済不安、感染症、地球環境の危機といった様々な形態での暴力が存在している。平和研究は、歴史・政治・文化・思想・運動・科学技術・地域研究などの様々なアプローチでこうした課題を探求してきた。

これをふまえて、本分科会では、現代世界の「非平和」の実相を分析し、それとのたたかひの現状を議論していきたい。議論を通じて、いま探求されるべき「平和」とは何か、そのためにはどのような条件が必要か、そして平和研究の課題とは何か、について検討していきたい。

#### 11月28日(日) 13:15～15:30

座長: 真嶋麻子 (個人会員)

- 13:15～13:20 座長あいさつ
- 13:20～13:50 (1) 瀬名波栄志 (京都大学大学院): 社会運動の政治社会学—フィリピンにおける反汚職運動のメカニズムとアウトカム—
- 13:50～14:15 討論
- 14:15～14:25 <休憩>
- 14:25～14:55 (2) 秋山道宏 (沖縄国際大学): 琉球沖縄の近現代史を編みなおす—入門書編さんを通してめざすこと—
- 14:55～15:20 討論
- 15:20～15:30 まとめ

### 【4】コロナ禍における大学院生の研究と生活

- ・設置責任者: 吉村さくら (中央大学院生分会)、峰尾菜生子 (中央大学院生分会)

- ・連絡先：natsume1905(at)gmail.com (吉村)、neo.mine0705(at)gmail.com (峰尾)

※メールを送る際は(at)を@に代えてください

- ・設置趣旨：本分科会では、コロナ禍で大学院生が研究者として成長する機会として、何が失われ、何を得たのかを考える。

当日は、コロナ禍での研究生活について報告と、大学院生全体の研究・生活実態に関する報告を予定している。学会報告、論文提出、調査などフォーマルな活動から、研究室での院生同士の交流などインフォーマルな活動まで取り上げて、コロナ禍前後の研究生活の変化に着目して議論する。

### **11月27日(土)10:00~12:15**

座長：吉村さくら（中央大学院生分会）、峰尾菜生子（中央大学院生分会）

10:00~10:05 座長あいさつ

10:05~10:35 (1) 小笠原正太郎（早稲田大学 院生）：人文学と社会科学の狭間で：教育思想史を研究するという事

10:35~11:05 (2) 土肥有理（明治大学分会）：海外を研究対象とする大学院生が直面した困難

11:05~11:10 <休憩>

11:10~11:40 (3) 梅垣緑（一橋大学博士課程）：コロナ禍のなかの大学院生と高等教育のゆくえ

11:40~12:10 (4) 全体討論

12:10~12:15 閉会あいさつ

### **【5】コロナ禍の女性の困難をさぐる**

- ・設置責任者：中島明子（J分会、はづきの会）、姉齒暁（駒澤大学分会）

・連絡先：mamanotanuki(at)yahoo.co.jp (中島) ※メールを送る際は(at)を@に代えてください

・設置趣旨：全国女性研究者・技術者グループは、昨年12月の総学分科会で「新型コロナ禍における女性研究者・技術者の困難と課題」のテーマで、大学における女性やマイノリティーの研究者への影響と、どのような支援が行われたのかを取り上げ、今年4月「はづきの会」では海外の事例も含め大学の状況を追究しました。今回は女性研究者の困難の背後にあるジェンダー問題と様々な支援と方向性について、さらに掘り下げて考えてみたいと思います。

### **11月28日(日) 15:50~18:05**

座長：横井夏子（東京支部）、中島明子（東京支部）

15:50~15:55 あいさつ

- 15:55~16:15 (1) 槌田 和美 (桜美林大学日本語非常勤講師) : コロナ禍の大学非常勤日本語教師・留学生の苦難—桜美林大学日本語プログラムの非常勤講師たちの提訴の背景—
- 16:15~16:35 (2) 中島 雅登 (個人会員) : コロナ禍と停滞するマイノリティの社会的包摂
- 16:35~16:45 <休憩>
- 16:45~17:05 (3) 浦野さとみ (日本共産党中野区議会議員 個人会員) : 生活相談などからみえる、くらしの状況について
- 17:05~17:25 (4) 佐久間千絵 (新日本婦人の会) : コロナ禍の女性と子どもの貧困について現場の実感より報告
- 17:25~18:00 質疑・討論 (質問・意見はチャットによる)
- 18:00~18:05 まとめ
- 18:05~19:05 オンライン懇親会 好きな飲み物+各自の5分スピーチ等

## 【6】リニア中央新幹線問題の検討と運動・経験交流 (part5)

・設置責任者：長田好弘 (武蔵野通研分会)、中野貞彦 (武蔵野通研分会)、橋本良仁 (高尾分会)

・連絡先：s.nakano(at)d012.dant2.jp (中野) ※メールを送る際は(at)を@に代えてください

・設置趣旨：リニア記事の回数と内容は、この数年で格段に広がった。外環道工事での道路陥没被害は、大深度法適用の深刻な問題を提起し、リニア計画への重大な警告ともなっている。熱海の土石流災害は残土処理の安全問題をあらためて浮き彫りにした。朝日新聞社説 (2021.7.5) は、「JR 東海と国交省はいったん立ち止まって事業の是非を再検討し、地元と真摯に対話することが求められる。」と主張している。所属自治体や異なる環境の住民が要求を異にすることは当然であり、その要求実現のために「リニア工事差し止め」の声が広がっている。川勝氏が「リニアより水を」の要求を掲げて知事選で圧勝したように、リニア問題で顕著となった地域要求実現のために連帯して、その運動が「計画の撤回と中止」を求める運動に大きく合流する研究集会にしましょう。

### 11月28日(日)10:00~15:30

座長：長田好弘 (武蔵野通研分会)、中野貞彦 (武蔵野通研分会)、橋本良仁 (高尾分会)

10:00~10:15 座長あいさつ

10:15~10:35 (1) 春日昌夫 (飯田リニアを考える会・事務局) : リニア残土処分を巡る最近の状況—長野県・伊那谷の場合—

10:35~10:55 (2) 桜井真理 (リニア新幹線を考える相模原連絡会) : リニア駅工事とトンネル工事による橋本地域の住民生活への影響—東京外環道陥没事故を受けて—

10:55~11:15 (3) 庄司善哉 (岐阜支部) : 中央新幹線中部総合車両基地造成と汚染残土

11:15~11:20 <休憩>

11:20~11:40 (4) 前田定孝 (三重支部): 名阪区間での新しいたかひと展望—通過地・三重県内でのとりくみが始まった—

11:40~12:00 (5) 大塚正幸 (東京支部): 外環道陥没事故が暴いた安全神話と大深度法制の不条理

12:00~12:15 <討論>

<昼食休憩>

13:15~13:35 (6) 林 克 (リニア問題を考える静岡県ネットワーク): 静岡のリニア問題—有識者会議の到達点と静岡県知事選—

13:35~13:55 (7) 桜井 徹 (日本大学名誉教授・国士舘大学経営研究所特別研究員): 米国におけるリニア建設計画の現段階—環境影響評価準備書 (DEIS) を中心に

13:55~14:15 (8) 川村晃生 (慶応大学名誉教授): リニア新幹線開通への危険信号

14:15~14:25 <休憩>

14:25~14:45 (9) 和泉貴士 (東京弁護士会・弁護団事務局次長): 「ストップ・リニア! 訴訟」の現状と課題—参加型訴訟における原告適格論の壁と、アセス法—

14:45~15:15 <討論>

15:15~15:30 閉会あいさつ

### 【7】科学技術の現状批判—日本の科学・技術の健全な発展のための課題 part13 —

・設置責任者: 長田好弘 (武蔵野通研分会)、久志本俊弘 (大阪支部)、矢作英夫 (武蔵野通研分会)

・連絡先: to4ksmt(at)yahoo.co.jp (久志本) ※メールを送る際は(at)を@に代えてください

・設置趣旨: 菅政権は、専門家の提言を無視したコロナ対策で混乱をきわめ、さらにオリ・パラ強行で感染爆発を引き起こしている。科学・技術の現状批判が市民運動において納得のいくものであるためには、私達の情報発信や活動の在り方にも改善が問われており、この間の活動をふり返って今後の課題を明らかにしていきたい。「骨太方針 2020」はデジタル・ガバメントの断行を最優先政策課題と位置付け、データの蓄積・共有・分析に基づく行政サービスの質の向上こそが行政のデジタル化の真の目的であるとし、デジタル庁の創設や IT 基本法改正を強行しようとしている。コロナ禍をもっけの幸いと言わんばかりのデジタル化社会への暴走に対してその危険性を暴くことが重要となっている。

キーワード: ○科学(者)と政治、○コロナ対策の検証、○個人情報保護、○働き方、○ジェンダー、○進む富の一極集中、○軍事費最大更新、○社会保障縮減、○サイバーセキュリティ、○気候危機、○自然との共生、○一極集中からの転換、○市民のスポーツ

#### 11月28日(日)15:50~18:40

座長: 長田 好弘 (東京支部武蔵野通研分会)、久志本 俊弘 (大阪支部)、矢作 英夫 (東京支部武蔵野通研分会)

15:50~15:55 座長あいさつ

- 15:55~16:20 (1) 野村康秀 (特許庁分会、JSA 科学・技術政策委員会): 研究の自由を侵害し科学・技術の進歩を妨げる秘密特許制度導入
- 16:20~16:45 (2) 矢作英夫 (JSA 東京支部武蔵野通研分会): 「デジタル関連法」による個人情報の一極集中は中止を
- 16:45~17:10 (3) 出口 幹郎 (JSA 大阪支部関西技術者研究者懇談会): 専門外の技術者が調査したコロナ危機における医療崩壊について
- 17:10~17:20 <休憩>
- 17:20~17:45 (4) 伊藤泰司 (JSA 大阪支部): 建設アスベスト訴訟の画期的勝利と現在の課題
- 17:45~18:10 (5) 山本謙治 (JSA 大阪支部関西技術者研究者懇談会): 黒い雨訴訟に学ぶ
- 18:10~18:35 (6) 小滝豊美 (JSA 国公立試験研究機関問題委員会/茨城支部): 独立行政法人の苦境をいかにして打開するか
- 18:35~18:40 まとめ (分科会責任者)

#### 【8】科学・技術サロン—日本の科学・技術の現状とロマンを語る part14—

- ・設置責任者: 長田好弘 (武蔵野通研分会)、松永光司 (武蔵野通研分会)
- ・連絡先: matsunaga\_mitsushi(at)hotmail.com (松永) ※メールを送る際は(at)を@に代えてください

・設置趣旨: パンデミックは、日本社会の諸矛盾を明るみに出し、菅政権の失政ははかり知れない苦痛を国民に押しつけている。そればかりか、違憲・違法な日本学術会議会員任命拒否を行ない、学術会議の「役割」の答申を強制し、日本学術会議がその組織的、科学的見識をもって、国民の痛苦を少しでも軽減しようと願っても、「大変忸怩たる思い」(梶田学術会議会長)の状態へと押し込めた。科学を無視し権力に頼る政治姿勢の一端である。いま国民は研究者に何を求めているのだろうか。パンデミックによる当面の痛苦の軽減と安寧な生活への方途を科学的知識に基づいて共に求めることではないだろうか。研究者にはそのために必要な、科学の正しい発展のための研究条件の確保が必要であり、それは民衆と共に進むものでなければならない。個々の問題で意見の相違が生じようとも、リスペクトをもって率直な意見交換をおこないましょう。

キーワード: ○パンデミック下研究教育現場、○国産ワクチンの開発、○国大協が18の提言、○日本の科学技術イノベーション危機、○安全保障技術研究推進制度と大学の実状、○デジタル庁創設、○AI ネットワーク社会

#### 11月27日(土)10:00~12:35

座長: 長田好弘 (武蔵野通研分会)、松永光司 (武蔵野通研分会)

10:00~10:05 開会挨拶

10:05~10:30 石綿 勇 (武蔵野通研分会): IPCC 第6次報告書と日本の温暖化対策・エネルギー政策について考える



- 10:30~10:55 土屋十囿 (中央大学理工学研究所) : 気候危機! 「流域治水」が求められる首都圏の課題
- 10:55~11:20 小金澤鋼一 (東海大学分会) : AI兵器の現状と禁止条約制定の動向
- 11:20~11:45 野村康秀 (JSA 科学・技術政策委員会、特許庁分会) : 「経済安全保障」一括法の動きと科学・技術の変質
- 11:45~12:10 増澤誠一 (特許庁分会) : 変わる知的財産事情 2021
- 12:10~12:35 松永光司 (武蔵野通研分会) : 監視社会化の危険はらむ「デジタル改革」、これとどうむきあうか

### 【9】任命拒否問題の今—学術会議と科学者コミュニティー

※取り下げ、欠番

### 【10】コロナ危機下における高等教育・研究を考える

・設置責任者：佐久間英俊 (中央大学分会)

・連絡先：sakuma(at)tamacc.chuo-u.ac.jp ※メールを送る際は(at)を@に代えてください

・設置趣旨：新型コロナウイルス感染症は職場や社会、生活を一変させた。高等教育・研究機関においても、遠隔授業への切り替え、教育研究施設の利用制限、在宅勤務の奨励と遠隔会議など、学びや働き方が大きく変わった。

日本政府はIT教育を手放しで推奨するが、現行の遠隔授業には課題も多い。加えて、留学生関連科目等では非常勤講師の不当解雇や差別も起きている。

コロナ危機が長引く中、現場で起きている問題を解決し、必要な教育や研究条件をどのように保障していくのか、参加者とともに考えたい。

#### 11月28日(日)10:00~12:15

座長：佐久間英俊 (中央大学分会)

10:00~10:05 座長あいさつ

10:05~10:25 (1) 佐久間英俊 (中央大学分会) : コロナ危機下の高等教育と研究の変容

10:25~10:45 (2) 小島雅史 (全国大学院生協議会 議長) : コロナ禍における大学院生の研究・生活の現在

10:45~11:05 (3) 前田定孝 (三重支部) : 大学における非正規雇用と労働契約— 無期転換の先でみえてきたもの—

11:05~11:15 <休憩>

11:15~11:35 (4) 松村比奈子 (拓殖大学他非常勤講師 / 首都圏大学非常勤講師組合執行委員) : 非正規と正規教職員組合の共闘が始まった! —大学「運営」に欠けていたのは民主主義の精神だった—

11:35~11:55 (5) 佐々木弾 (東京大学) : 「裸の王様」大学・学校法人— 高等教育機関が反面教育機関である不都合な現実 —

11:55~12:15 討論

**【11】非正規教職員の労働運動のこれからを展望して**

・設置責任者：衣川清子（個人会員）

・連絡先：kinu\_k716(at)yahoo.co.jp ※メールを送る際は(at)を@に代えてください

・設置趣旨：雇用の安定をめざして2013年4月から施行された改正労働契約法とそれ以降の推移は、非正規教職員の労働運動を前に進めると同時にいくつかの問題も提起した。多くの労働者が無期契約に転換できた一方で、無期転換を嫌う企業による更新上限付与、「委託」「請負」としての労働者性の否定、恣意的な就業規則改定による労働条件引き下げ、均衡・均等待遇の否定の動きが見られる。こうした逆風にどう立ち向かっているか、たたかひの現状と展望を現場から報告してもらおう。

**11月27日(土)10:00~12:15**

座長：衣川清子（東京支部常任幹事）

10:00~10:05 座長あいさつ

10:05~10:30 (1) 衣川清子（東京支部常任幹事・大学等教職員組合委員長）：非正規教職員の労働運動のこれからを展望して

10:30~11:00 (2) 佐々木信吾（横浜地区労働組合協議会議長・河合塾ユニオン書記長）：河合塾事件・中央労働委員会でも復職命令

11:00~11:10 <休憩>

11:10~12:15 討論

**【12】文学はパンデミックをどう描いてきたか—内外の文学作品鑑賞の交流会—**

・設置責任者：風見梢太郎（武蔵野通研分会）

・連絡先：kazami(at)big.or.jp ※メールを送る際は(at)を@に代えてください

・設置趣旨：カミュの『ペスト』をはじめ、疫病の大流行との闘いを描いた多くの優れた作品があります。圧倒的な死の恐怖の中、疫病との闘いを生き延びてきた人類の足跡を、文学作品の中にさぐってみたいと思います。今回の新型コロナウイルスの蔓延による国民の困苦を描いた作品にも読むべきものがあります。話題提供の報告のあと、参加者が自由に発言できる交流会形式にしたいと考えています。

**11月28日(日)10:00~12:15**

座長：風見梢太郎（武蔵野通研分会）

10:00~10:05 座長あいさつ

10:05~11:05 (1) 報告者 風見梢太郎（武蔵野通研分会）：文学に描かれたパンデミックとの闘い—第12分科会への話題提供—

11:05~11:15 <休憩>

11:15~12:15 (2) 自由討論

**【13】自然科学の進展を俯瞰する II**

・設置責任者：青木和光（国立天文台分会）

・連絡先：aoki.wako(at)gmail.com ※メールを送る際は(at)を@に代えてください

・設置趣旨：自然科学の各分野で著しい進展がある一方、専門化が進んでいるため、科学者の中で必ずしもそれを共有しにくい状況があるのではないのでしょうか。専門の異なる研究者が集まる日本科学者会議の特色をいかし、各分野での進展を研究者個人の視点でみつめなおし、それを交流することで自然科学の潮流をつかむことを目標にします。分科会では、3人程度からそれぞれの分野での顕著な進展とその特徴や背景を報告してもらい、参加者にも各分野の状況を発言いただく時間をとる予定です。また、コロナ禍のなかで研究をめぐる環境が激変し、それが今後の研究活動にどう影響していくのか、という課題も議論したいと考えています。報告・発言の希望を歓迎します。

**11月28日(日)10:00~12:15**

座長：青木和光（東京支部）（仮）

10:00~10:05 座長あいさつ

10:05~10:35 (1) 青木和光（東京支部・自然科学勉強会）：コロナ禍における研究・教育とコミュニケーション

10:35~11:05 報告を受けての議論

11:15~11:15 <休憩>

11:15~12:00 関連する話題での情報・意見交換

**【14】資本主義を改革する経済政策**

・設置責任者：村上研一（中央大学分会）

・連絡先：murakami(at)tamacc.chuo-u.ac.jp ※メールを送る際は(at)を@に代えてください

・設置趣旨：人びとの暮らしと福祉を向上させるためにも、さらには日本の経済を立て直すためにも、資本主義の原理に踏み込んだ改革が必要ではないか。そのための経済政策を立案していく時期に来ているのではないのか。改革の基本方向はあらゆる意思決定に人々の参加を拡大していくことではないか。こうした考えに基づいて、共著『資本主義を改革する経済政策』（かもがわ出版、2021年1月）を刊行した。本分科会では、同著の執筆者の報告と討論を通して、これからの経済政策のあり方、日本経済のあり方について議論していきたい。

**11月28日(日)15:50~18:05**

座長：村上研一（中央大学）

15:50~16:20 (1) 佐藤拓也（中央大学）：長期停滞の基本構造と改革の基本方向・課題

16:20~16:50 (2) 村上研一（中央大学）：日本産業の基本性格とめざすべき経済・社会—新自由主義・資本主義の原理を克服して—

16:50~17:20 (3) 歌川学（産業技術総合研究所）：気候変動・気候危機、脱炭素・エネ

## ルギー自立転換と地域経済

17:20~17:25 &lt;休憩&gt;

17:25~18:05 全体討論

**【15】日本の食と農を考える**

・設置責任者：西村一郎（個人会員）

・連絡先：info(at)nishimuraichirou.com ※メールを送る際は(at)を@に代えてください

・設置趣旨：農家の高齢化や減少などで耕作放棄地がますます増え、日本の農業の国民的課題が広がる。食料自給率は最悪の37%となる中で、ゲノム編集のトマトを国が認可し市場に出ようとしている。国民の求める安心・安全・安定で地域に根差した食と農が、これまで以上に求められている。そうした日本の食と農の現状と課題について参加者と一緒に考える。

**11月28日(日)13:15~15:30**

座長：西村一郎（個人会員）

13:15~13:20 座長あいさつ

13:20~13:50 (1) 吉森弘子（たねと食とひと@フォーラム）：ゲノム編集食品の動向や課題

13:50~14:20 (2) 立石昌義（埼玉支部、食料問題研究委員会）：気候危機・パンデミック危機回避に期待される日本農業

14:20~14:30 &lt;休憩&gt;

14:30~15:00 (3) 西村一郎（個人会員 食糧問題政策委員会）：東北の被災地における農業と漁業の復興事例

15:00~15:30 (4) 原 英二（食糧問題研究委員会、日本消費者連盟）：「みどりの食料システム戦略」と有機農業の未来を考える

**【16】コロナ危機と労働問題**

・設置責任者：黒田兼一（明治大学分会）、米田貢（中央大学分会）

・連絡先：kuroken(at)meiji.ac.jp（黒田） ※メールを送る際は(at)を@に代えてください

・設置趣旨：COVID19（新型コロナウイルス感染症）は私たちの生活を一変させた。それは人々の働き方をも直撃し、失業、賃金の切り下げ、在宅勤務（リモートワーク）、個人請負（雇用によらない働き方）の増加、さらにはワーク・ライフ・バランスの変容（長時間労働）を招いている。WHOは「在宅勤務が増え、経済が失速したことで、長時間労働とそのリスクが一層悪化している可能性がある」と警告している。

この分科会では、これらまさに進行中のCOVID19災禍での働くことをめぐる実態とその問題点を議論し、その解決に向けた課題を明らかにする。

**11月27日(土)10:00~12:15**

座長：黒田兼一（明治大学分会）、米田 貢（中央大学分会）

10：00～10：15 座長あいさつ（若干の問題提起を含む） 黒田兼一

10：15～11：00（1）杉村 和美（ユニオン出版ネッツ執行委員）

メディア関連フリーランスの実態と保護の課題

11：00～11：45（2）森 英一（電機・情報ユニオン書記長）

テレワークの常態化からジョブ型雇用を狙う電機業界

11：45～12：15 質疑応答及び討論

### 【17】あたらしい時代の JSA 支部活動

・設置責任者：森原康仁（個人会員、専修大学）

・連絡先：ya.morihara(at)gmail.com ※メールを送る際は(at)を@に代えてください

・設置趣旨：全国大会や東京支部大会の決議でたびたび触れられているように、支部活動の強化は、JSA の活動をより魅力的なものにするうえでも、その規模を大きくするうえでも決定的な重要性をもつ。一方、JSA 創立から 50 年以上がたち、現代にあわせた柔軟な活動スタイルを模索する取り組みも求められている。そこで、本分科会では、JSA の活動強化をめぐる豊かな経験に学び、将来を展望しうる機会を提供したい。

#### **11月28日(日)13:15～15:30**

座長：森原康仁（個人会員）

13：15～13：20 座長あいさつ

13：20～13：50（1）中島明子（J 分会・はづきの会）：支部の女性会員の活動「はづきの会」から会員の多様性へ

13：50～14：20（2）松永光司（支部幹事）：JSA 東京支部の組織活動の経験をどう活かすか

14：20～14：30 <休憩>

14：30～15：00（3）峰尾菜生子（中大院生分会）：コロナ禍での院生・若手活動の工夫と困難

## 4. ポスターセッションと展示

オンライン開催のため、今回は実施しません。

## 5. プレ企画イベント

プレ企画イベント 「第 21 回東京科学シンポジウム記念 囲碁大会」

日時：2021 年 11 月 14 日（日）13:00-17:30

場所：吉祥寺東コミュニティセンター（JR 吉祥寺駅北口から徒歩 7 分）

東京都武蔵野市吉祥寺東町 1-12-6

TEL 0422-21-4141

(会場は土足禁止のため、スリッパを持参ください。)

試合形式：変則リーグ戦、1人3対局 (穂坂繭 日本棋院三段による指導碁もあります)

会費：1000円/1人 (指導碁は+2500円)

連絡先：日本科学者会議東京支部 矢作英夫、米田貢

042-421-9632 (矢作)、[myahagi@viola.ocn.ne.jp](mailto:myahagi@viola.ocn.ne.jp)

## 6. 開催日程と主な企画

	午前 10:00~12:15	午後 I 13:15~15:30	午後 II 15:50~18:05
11月27日(土)	分科会 1	開会式 特別報告 I 特別報告 II	
11月28日(日)	分科会 2	分科会 3	分科会 4

注) 上記はシンポジウムの主要な企画の概要です。閉会式や新たな企画が加わるなど細部は若干変更になる可能性があります。

## 7. 参加費は無料、募金にご協力ください

オンライン開催とする今回の東京科学シンポジウムでは、これまでかかっていた様々な費用を削減できるため、参加費は無料とします。しかし特別報告の講師謝礼、通信費、印刷・宣伝費等一定の共通費が必要です。これらは東京支部のシンポジウム開催予算と皆さまからの募金で賄う予定です。

3rd サーキュラーの送付の際、同封した振り込み用紙で募金にご協力ください。また、参加登録時に記入いただいた方にもご案内いたします。

## 8. 本シンポジウムへの参加方法

### (1) オンライン企画への参加方法

今回の東京科学シンポジウムの企画はこれまでと同じく予め決められたプログラムに沿って実施します。オンライン・ソフトは Zoom ミーティングを使用し、使用契約は実行委員会が行います。

1) 参加希望者は、**事前に実行委員会ホームページで参加登録を行います**。参加登録いただいた方に実行委員会から Zoom 接続方法をお知らせします。

※予稿は参加登録者にオンラインでご覧いただけるようにします。予稿集冊子版は有料

頒布します。上記ホームページで参加登録を行う際、併せてお申し込み下さい。**事前に受け取るためには、遅くとも11月19日までに参加登録（お申し込み）**ください。

2) すべての参加者は、自宅などから参加したい企画のURLにアクセスして参加します。

3) 司会者が進行を管理し、オンライン上で講演や報告、討論を行います。インターネットに接続できる情報機器（PC など）があれば、オンラインで開催される企画に参加することはさほど難しくありません。

※Zoomについては、<https://zoom.us> をご覧ください。

## (2) オンライン開催でできること

分科会の開設日時に、参加者（分科会設置責任者、座長、報告者を含む）が、各々自宅などから分科会URLにアクセスして、ウェブ上で報告と討論を行います。

1) 報告者はPCのマイクを通じて音声で内容を伝えながら、同時に「画面共有」機能を使って、アクセスしている参加者にスライド（報告レジュメや資料など）を見せることもできます。

2) 参加者は自分の情報端末（PC など）を用いて、画像と音声で報告や講演を見聞きします。

3) 参加者は、司会の指示に基づいてマイクで発言したり、チャット機能（文字入力）を使って意見を出し、討論に参加したりすることができます。

## (3) 実行委員会は企画のオンライン開催を全面的にサポートします

1) Zoomソフトの使用契約、オンライン開催の立ち上げは実行委員会が行います。

2) 必要な場合は、分科会開設時間帯に実行委員会の担当者が待機し、トラブル等に対処します。

## (4) サテライト会場など、多様な参加を

参加費無料を活用し、企画テーマに関心のある様々な人々（非会員も）を気軽に誘って下さい。各分会や職場・学園の会議室や会員の研究室・自宅などネット環境のある場所に複数名が集まれる場合は、複数名で1つのPCを共用する参加方法もあります。オンライン操作等に不慣れな人も参加しやすく、お勧めです。

## 9. 予稿集の入手方法

予稿集（電子版）はインターネット上の資料置き場から無料でダウンロードできます。11月下旬頃、参加登録者にアクセス方法をメールでお知らせします。

予稿集冊子版は有料頒布します。参加登録時にお申し込みください。事前に受け取るためには、遅くとも11月19日までに申し込みください。

## 10. 今後のスケジュール (予定)

○11月10日 3rd Circular 発行 (最終プログラムを公表。参加者を募集)

※予稿集 (冊子) をご希望の方は参加登録時にお申し込みください。

○11月14日 プレ企画 囲碁大会

○11月下旬 予稿集発行

参加登録者は電子ファイルをダウンロード

冊子予約者には指定住所へ送付します

○11月27日～28日 第21回東京科学シンポジウム

※東京科学シンポジウムは東京支部の今年最大の企画であり、会員が日頃の研究の成果を発表する場でもありますが、実行委員会は市民とともに成功させようと位置づけています。非会員の方もお誘いのうえ、皆さん、気軽ご参加ください。

---

### 第21回東京科学シンポジウム実行委員会

青木和光 (支部常任幹事)、小尾晴美 (支部幹事)、衣川清子 (支部常任幹事)、葛谷泰慣 (支部幹事)、○佐久間英俊 (支部事務局長)、堂野崎衛 (支部幹事)、中島明子 (支部代表幹事)、中西大輔 (支部幹事)、中野貞彦 (支部常任幹事)、真嶋麻子 (支部幹事)、松永光司 (支部幹事)、峰尾菜生子 (支部常任幹事)、森原康仁 (支部常任幹事)、吉村さくら (支部常任幹事)、◎米田貢 (支部代表幹事) ◎：実行委員長、○：実行委員会事務局長

---

日本科学者会議東京支部 第21回東京科学シンポジウム実行委員会

〒113-0034 東京都文京区湯島 1-9-15 茶州ビル 9階

Tel/Fax : 03-3811-8281

e-mail : 21st-kagaku(at)jsa-tokyo.jp

※メールを送る際は(at)を@に代えてください

---